

事業実施報告書 (DX 強化枠)

1 実施主体の概要

企業名	お食事処●●●●●●●●
業種	<input type="checkbox"/> 製造業 <input type="checkbox"/> 建設業 <input type="checkbox"/> 運輸業 <input type="checkbox"/> 卸売業 <input type="checkbox"/> 小売業 <input type="checkbox"/> 宿泊・観光業 <input checked="" type="checkbox"/> 飲食業 <input type="checkbox"/> 理美容業 <input type="checkbox"/> その他 ()
担当者職・氏名	代表 北九 太郎
電話番号・ファクシミリ	(電 話) 093-●●●●-●●●● (FAX) 093-●●●●-●●●●
担当者メールアドレス	●●●●●●@●●●●●●.co.jp

2 実施内容

開始年月日は募集開始日以降

事業期間	開始	令和8年4月30日	終了	令和9年1月5日 ※最長令和9年1月7日まで
(1) 実施区分	○	デジタル技術を活用した生産性向上計画書の作成		
(2) 事業実施状況	<p>【デジタル技術の活用に向けた生産性向上計画書の作成】</p> <p>(1) 実績概要</p> <p>本事業では、申請時に提出した「事業実施計画書」に基づき、創作料理を提供する当社2店舗(A店・B店)における業務フローの可視化、人手不足に起因する課題抽出、デジタル化による生産性向上余地の分析、ならびにデジタル技術導入の優先順位付けを行い、デジタル推進計画書(別紙提出)を作成した。</p> <p>計画作成にあたっては、北九州〇〇社の支援を受けつつ、店舗スタッフへのヒアリング、業務工数調査、ツール候補の調査・軽微な実証、導入効果の評価を実施し、計画時点で想定したスケジュールに沿って事業を進めた。</p> <p>(2) 実施内容</p> <p>① 現状業務の可視化・課題抽出 計画内容：現状フローの把握と工数調査 実績：キッチン・ホール・締め作業・在庫管理の各工程について担当者ごとに工数と課題を整理。 人手不足による注文遅延、創作メニュー開発時間の不足、締め作業の属人化などの問題点を明確化した。(北九州△△社協力)</p> <p>② デジタル技術導入の方針検討 計画内容：モバイルオーダー、POS、セルフレジ、在庫管理、AI シフトなどの調査 実績：モバイルオーダー／テーブルオーダー機器を試験利用 POS システムと在庫管理連動の可否をベンダーへ確認 セルフレジのレンタル検証を実施 AI シフト作成ソフトのデモを複数社比較 以上を北九州■社協力のもと実施。 効果(工数削減)、費用、実現性の3軸で評価し、優先順位を整理。</p> <p>③ 従業員理解促進の取組 計画内容：従業員研修への参加 実績：北九州◎◎社が実施する「飲食店向け業務プロセス可視化研修」を受講し、従業員全体で改善意識を統一した。</p> <p>④ ロードマップの策定 計画内容：1～1.5年での実装スケジュール策定</p>			

実施内容を具体的に(何を、どのように等)記載

	<p>実績：店舗状況や費用感・効果見込みを踏まえ、下記フェーズで進める計画書作成 短期：モバイルオーダー／セルフレジ導入検討と実証 中期：POS 一元化・在庫連動の導入 中長期：AI シフト導入と在庫の自動発注化</p> <p>申請時の計画どおり、課題整理→技術調査→優先順位付け→ロードマップ策定まで完遂した。</p> <p>(3) 成果物（別紙提出） デジタル推進計画書（最終版） 業務フローチャート／工数分析資料 デジタルツール比較表（モバイルオーダー、POS、セルフレジ、シフト AI 等） 各種デモ・検証記録 従業員ヒアリング記録 検証時の写真、研修受講記録</p>
<p>(3) 事業実施 効果・今後の見込み</p>	<p>作成した計画を実行に移した場合の効果やロードマップの詳細は別紙提出のデジタル推進計画書を参照のこと。 下記に作成前と作成後の認識の変化を記載し、合わせて計画遂行による効果やロードマップを推進計画書から一部抜粋して記載する。</p> <p>(1) 事業実施による効果 本事業を通じて、当社が抱える生産性課題（注文遅延、オペレーション属人化、創作メニュー開発時間不足等）が明確化され、デジタル導入による定量的な改善効果をより詳細に把握できた。 現時点で想定している計画実施後の効果は以下のとおり。</p> <p>① 人件費の削減見込み モバイルオーダー・セルフレジ導入によるホール工数削減 POS・在庫連動による締め作業・在庫管理工数減 AI シフト導入によるシフト最適化 → 申請時に総人件費の 20%～30%削減を見込んでいたが、モバイルオーダーやセルフレジの操作説明等に人員を置く必要があると思われるため現時点では 20%～25%を想定</p> <p>② 創作メニュー開発時間の確保 A 店店長兼キッチンスタッフ C 氏の多店舗支援負担が軽減され、看板商品の「週替わり創作メニュー」開発時間の増加が期待される。 → 利益率の高いメニュー更新が安定し、リピート客の維持・単価向上を見込む</p> <p>③ 顧客満足度・売上の向上 注文ミス・注文滞留の防止 キャッシュレス対応による顧客離れ防止 会計混雑の緩和 → 顧客回転率・レビュー評価の改善が期待</p> <p>④ 食材ロスの削減 POS 連動型在庫管理により → 申請時は食材ロス 10%程度を見込んでいたが、想定以上に多くの食材を効率よく管理できる見込みとなり 15%程度の削減を見込む。</p> <p>⑤ 組織面の改善 シフト公平性の担保 店長の精神的負担軽減 従業員満足度向上 → 離職率低下 → 事業拡大に耐える店舗運営基盤の構築</p>

計画通りに進まなかった部分があれば合わせて記載してください。

事業実施前と計画作成後で効果数値の想定に変化があった場合は具体的に記載。

	<p>(2) 今後の見込み（ロードマップ）</p> <p>本事業で作成したデジタル推進計画に基づき、以下のステップでデジタル活用を進める予定である。</p> <p>●短期（～6 ヶ月）</p> <p>モバイルオーダー／セルフレジの導入 現金→キャッシュレス比率の向上 POS システム統一の準備</p> <p>●中期（6～12 ヶ月）</p> <p>POS と在庫管理の連携導入 食材ロス削減の効果測定 キッチン業務フローの再最適化</p> <p>●中長期（1～1.5 年）</p> <p>AI シフト導入 一部食材の自動発注化 従業員研修の定着化</p> <p>これらを踏まえ、2 店舗の収益基盤を強化し、将来的には3 店舗目以降の出店に向けた拡大基盤を整備する。</p>
--	---

※添付書類：

- ・支出の事実を確認できるもの（契約書、領収書、振込伝票、通帳の写し 等）
 - ・事業の実施状況が分かるもの（成果物、導入した機械器具・システム等の写真 等）
- （その他、個別の費目に応じて別途書類が必要となる場合があります。）

3 事業費及び助成金申請額の実績

(1) 事業（取組）実施に必要な経費（支出）

実施区分	費目	経費概要	発注先/所在地	金額（消費税抜きの額）	合計額(A)
デジタル技術を活用した生産性向上計画書の作成	委託費	計画作成に向けた支援委託	北九州〇〇 (北九州市)	3,000,000 円	4,500,000 円
	調査費	業務フロー分析依頼	北九州△△ (北九州市)	400,000 円	
	機械器具費	デジタル機器やシステムの簡易検証経費	北九州■ (北九州市)	1,000,000 円	
	外部研修参加費	業務プロセス可視化研修受講	北九州◎◎ (北九州市)	100,000 円	
交付決定額					2,000,000 円
助成金申請額					
助成対象経費合計額 (A) × 1 / 2 (上限額 200 万円)					2,000,000 円

(2) 資金計画（収入）

区分	金額（消費税抜きの額）	調達先
本助成金	2,000,000 円	公益財団法人北九州産業学術推進機構
自己資金	2,500,000 円	—
借入金	円	
その他 ()	円	
合計	4,500,000 円	(1) 合計額 (A) と同額